職業実践専門課程等の基本情報について

		設建	置認可年月	日 校	長名			所在地		
神戸製菓専門	(電話) 078-221-8010									
設置者名			<u>な認可年月</u> 成4年1月9		表者名 田仲 豊徳	〒 (住所)	650-0001 神戸市中央区加納町	所在地		
						(電話)	サアリース区が初 078-221-8026 門士認定年度	6	之 左在 職業中間	声明细和韧带左
<u>分野</u> 衛生		認定課程名 5生専門課		認定学科製菓本科			711 認定年度 以17(2005)年度	高度専門士認知		専門課程認定年度 ;26(2014)年度
学科の目的				 -スに高度な製菓技術			所を学び、「製菓衛生師	」の資格取得を目標と	:します。2年次では、専	門性を究めるための
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	取得可能力	な資格は製薬	集衛生師で	、卒業後、受験可能な	資格は、菓子	製造技能士	:2級です。			
修業年限	昼夜	全課程の修		な総授業時数又は総 立数	講家		演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	2,010 単位時間	486 OO	単位時間単位	120 単位時間	1,380 単位時間	24 単位時間	0 単位時間
生徒総定員		€ 員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生割	合(B/A)	中退率			
160 人	132			0 人	0	%	00 %			
	■卒業者 ■討職委	数(C) 望者数(D)	:	57 56	•	<u> </u>	-			
	■就職者	数 (E)	:	54		人				
	■地元就 ■就職率	職者数(F) (F/D)		35 96		人 %				
			元就職者0)割合 (F/E)						
	■应業者	に占める就職	*************************************	65 (F/C)		%				
			ᄴᆸᄊᆌᄆ	95		%				
就職等の状況	■進学者	釵		0		人				
	(令和			に関する令和7年5月	1 日時点の情報	級)				
		職先、業界	·等							
	(令和6年度		企業(製革	€、製パン)、カフェ、ſ	固人店					
					L / 1/L					
₩ — ± 1. 7		評価機関等					無			
第三者による 学校評価							評	価結果を掲載した		
		評価団体:			受審年月:					
当該学科の							ホ	ームページUR L		
	l						木	ームページUR L		
ホームページ URL	https://w	ww.kobesei	ika.ac.jp/s	ubject/honka/			水	ームページURL		
		ww.kobesei		ubject/honka/			ホ	ームページUR L		
			算定)	ubject/honka/				ームページUR L	2,010 単位時間	
		立時間による総授業時数	(算定)	ubject/honka/ 手と連携した実験・実	習・実技の授美	業時数	ж	ームページUR L	2,010 単位時間 720 単位時間	
		立時間による総授業時数	5算定) 【 うち企業等			業時数	**	-AX-VURL		
		立時間による	5算定) 【 うち企業等	音と連携した実験・実 音と連携した演習の授		業時数	**	-AX-VURL	720 単位時間	
		立時間による	5算定) (うち企業等 うち企業等	音と連携した実験・実 音と連携した演習の授	業時数			-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間	
		立時間による	5算定) (うち企業等 うち企業等	きと連携した実験・実 きと連携した演習の授ま 要業時数	業時数た必修の実験・	実習・実法		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間	
URL	(A:単位	立時間による	。算定) (うち企業等 うち企業等 うち必修招	春と連携した実験・実 春と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	・実習・実技		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間	
URL と業等と連携した と習等の実施状況	(A:単位	立時間による	。算定) (うち企業等 うち企業等 うち必修招	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	・実習・実技		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間	
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	(A:単位	立時間による	の算定) (うち企業等 うち企業等 うち必修持	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	・実習・実技		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による総授業時数	の算定) (うち企業等 うち企業等 うち必修持	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	・実習・実技		-AN-SURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による名総授業時数がによる第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数による第一の数によるを表します。	5.算定) (うち企業等 うち必修 (うち企業 (うち企業	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	・実習・実打 シ授業時数 受業時数)		-AN-SURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間	
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修材 (うち企業 (うち企業 (うち企業 (うち企業)	をと連携した実験・実 を連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター	業時数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの打	・実習・実打 シ授業時数 受業時数)		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間	
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修材 (うち企業 (うち企業 (うち企業 (うち企業)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単作	業時数 た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの打	・実習・実打 シ授業時数 受業時数)		-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単位	
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修材 (うち企ま (うち企ま (うち企業等) うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単作	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の 一ンシップの担 で、実技の単位 で、実技の単位 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	実習・実技) 授業時数 受業時数) 立数	支の授業時数	-AN-SURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修 (うち企業 (うち企業 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の カーンシップの担 で、実技の単位 で な な な な な な な な な な な な な な な な な な	・実習・実 対授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 対量位数	支の授業時数	-AN-PURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
URL ■	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修 (うち企業 (うち企業 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の カーンシップの担 で、実技の単位 で な な な な な な な な な な な な な な な な な な	・実習・実 対授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 対量位数	支の授業時数	-AN-PURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間によるを 総授業時数 立数による第 総単位数	5 算定) (うち企業等 うち必修 (うち企業 (うち企業 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の カーンシップの担 で、実技の単位 で な な な な な な な な な な な な な な な な な な	・実習・実 対授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 対量位数	支の授業時数	-AX-VURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による数による数による第総単位数	5 算定) (うち企業等 (うち企業	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要素時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実験・ た必修の演習の こンシップの技 習・実技の単位 位数 た必修の演習の た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの自	・実習・実 対授業時数) 受業時数) 立数 実習・実 対量位数	支の授業時数	-AN-PURL	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による 数は はよる 数による 数 でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも	5 算定) (うち企業 等 等 技	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 、 等と連携した大変 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というは、 といいは、 というは、 というは、 というは、 というは、 というは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいいいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいは、 とい	実習・実技)授業時数) 受業時数) 立数 実習・実技)単位数 単位数)	支の授業時数		720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による 数は はよる 数による 数 でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも	9 算定) (うち企業等等 括 (うち 企	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したな	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というは、 といいは、 というは、 というは、 というは、 というは、 というは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいいいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいは、 とい	実習・実技)授業時数) 受業時数) 立数 実習・実技)単位数 単位数)	支の授業時数		720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立 数 による 数 を当 ず な を と で を を と を 数 に よる 数 で す で の で を と で か と と な 数 で す す 年 な で か よ と な か に そ 程 年 以 に で も で か よ と を か ま な か に で も で か よ と を か ま な か に と で か よ と で か ま な か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	9 算定) (うち企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 も 企 企 修 を す き な の 専	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター を等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した で数 で数 はな で数 には事したが、学 には事したものであって 実務に従事した期間と	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というは、 といいは、 というは、 というは、 というは、 というは、 というは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいいいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいは、 といいいは、 とい	実習・実技)授業時数) 受業時数) 立数 実習・実技)単位数 単位数)	支の授業時数		720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL と業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立 数 による 数 を当 ず な を と で を を と を 数 に よる 数 で す で の で を と で か と と な 数 で す す 年 な で か よ と な か に そ 程 年 以 に で も で か よ と を か ま な か に で も で か よ と を か ま な か に と で か よ と で か ま な か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	9 算定) (うち企業等等 括 (うち 企	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター を等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した で数 で数 はな で数 には事したが、学 には事したものであって 実務に従事した期間と	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実打)授業時数) 立数 実習・実打 の単位数 (専修学	支の授業時数	(第1号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 60 単位時間 - 単位	
URL 主業等と連携した と関等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立 数 に よ 数 を で す を は 数 で で す を な 数 で で す な 数 で で す な 数 で す な な 数 で す な 数 で す な か で す な か で す な か で す な で か で す す な か で す す な で す す な か で す す な か で す す な か で す す な か で す す な か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	9 算定) (うち企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 技術を企業等等 等 も 企 企 修 を す き な の 専	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した で数 うち企業等と連携した ま等と連携した まで まで は な まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実技)授業時数 受業時数) 立数 実習・実技)単位数 (専修学	支の授業時数 支の単位数 * なの単位数	質第1号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
企業等と連携した 髪習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立 助 間 に よ を を を を を を を を を を を を を	9 算定) (うち企業等等 括	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した で数 うち企業等と連携した ま等と連携した まで まで は な まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実技)授業時数) 立数 実習・実技)単位数 (専修学 (専修学	支の授業時数 支の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第1号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 4 人	
企業等と連携した 経習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) に記入)	(A:単位	立 助 間 に よ を を を を を を を を を を を を を	算定) (うち企業等等 括 (うちを企業等等 括 (うちを企業等等 (うちを企業) (うちを企業 (うちを必修を) (うちを必要なる) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した な等と連携した不少ター を連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した では数 うち企業等と連携した では数 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではないない。 ではないなない。 ではなない。 ではない	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実技)授業時数)	支の授業時数 支の単位数 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項 - 校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 夏第3号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位	
企業等と連携した 変習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) (京記入)	(A:単位	立 助 間 に よ を し は し な 数 し は し は し は し は し し は し は し は し は し は し に し は し に に し に に し に に に に に に に に に に に に に	算定) (うち企業等等 括 (うちを企業等等 括 (うちを企業等等 (うちを企業) (うちを企業 (うちを必修を) (うちを必要なる) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを企業を) (うちを)	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した な等と連携した不少ター を連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した では数 うち企業等と連携した では数 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではないない。 ではないなない。 ではなない。 ではない	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実技)授業時数)	支の授業時数 支の単位数 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19	第1号) 第2号) 第3号) 夏第3号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 - 単位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位	
企業等と連携した 経習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) に記入)	(A:単位	立時間に な数 を が は な数 で ののの ののの のより で のののの のより で のののののののののののののののののののののののののののののののののの	9 算定) (うち企業等 等 括 等 等 等	等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した な等と連携した不少ター を連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した では数 うち企業等と連携した では数 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではないない。 ではないない。 ではないない。 ではないなない。 ではなない。 ではない	業時数 た必修の実験・た必修の実際でいた。 と必修の実際である。 との修の実際である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修の実験である。 との修のはおいては、 とのには、 とのには、 とのには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 というには、 といいいいは、 というには、 というには、	実習・実技)授業時数)	支の授業時数 支の単位数 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19	第1号) 第2号) 第3号) 夏第3号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 0	
企業等と連携した と習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) に記入)	(A:単位	立時間に 総授業 時数 (本) の (本) の (a) の (b) の	9 算定) (うち企業等 等 持 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等	等と連携した実験・実済と連携した演習の授業 要素時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター を等と連携した演習の単位 位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した で数 うち企業等と連携した で数 うち企業等と連携した であって と で で で で と で と で と で と で と で と で と で	業時数 た必修の実験・た必修の実験・でと必修の実力の担当を表しています。 というないでは、 といいでは、 といいいいでは、 といいでは、	実習・実技)授業時数) 立数 ・実習・数 単位数) (専修学 (専修学 (専修学	支の授業時数 支の単位数 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19 - 校設置基準第41条第19	類第1号) 類第2号) 関第3号) 関第5号)	720 単位時間 - 単位時間 720 単位時間 720 単位時間 - 単位時間 60 単位時間 - 単位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 位 - 単 0	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

学科の養成目標(学生が卒業時に身につけておくべき能力)到達のため、教育課程編成委員会や講師会議での意見を参考に、カリキュラムを見直している。また、卒業制作展では、業界関係者から評価を頂くとり組みを行っている。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されている。委員会で出された意見を集約し、評議員会、理事会に報告している。また、カリキュラム変更等は評議員会、理事会で議決し反映している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
斎藤 満知子	学校法人 神戸滋慶学園 常務理事	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	_
川口 延子	神戸製菓専門学校 校長	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	_
才田 宗二	神戸製菓専門学校 顧問	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	_
黒田 尚子	神戸製菓専門学校 事務局次長	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	_
松田 慎介	神戸製菓専門学校 教務部長	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	_
波連 良子	神戸製菓専門学校 事務局主任	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	_
髙杉 良和	株式会社本髙屋 商品開発部 顧問	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	3
井筒 英治	兵庫県パン商工組合 理事長、株式会社イス ズベーカリー会長	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	1
西村 欣祐	兵庫県菓子工業組合 理事長、株式会社西村 清月堂 会長	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	1

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月15日 14:30~16:30 第2回 令和7年2月18日 14:00~15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員のご意見を踏まえ、業界が求める人材養成のために、コミュニケーション能力を高める授業として、2年次には、高度な 知識、技術を高める高度洋菓子実習や主体的に学生が取り組む製菓研究ゼミをカリキュラムに取り入れている。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界から求められる人材育成のため、実習科目においては、企業の方に授業を担当頂いている。また業界の動向に合わせ た授業の検討、実施、評価を行っている。

- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習は企業の方に担当頂いている。

科目名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
高度洋菓子実習	2. 【校内】企業等から の講師が一部の授業 のみを担当	菓子製造に関する実践的な授業を 行うため、企業・業界団体から当該 企業に所属する技術者を講師とし て派遣し、校内の実習施設や設備 等を活用した指導などの協力を得 られる企業・団体を選定している。 プロとしての総合力(=現場力)を 身に付けるために、分野のスペ シャリストによる実習は、大変重要 な要素であると考えている。	有限会社ブルシェ、 有限会社エトワール
基礎実習	2.【校内】企業等から の講師が一部の授業 のみを担当	和菓子・洋菓子・パンの基本的な 技術を修得するためには、企業の 方からの実習指導は、大変重要で あると考えている。	株式会社本高砂屋、株式会社幸成堂
店舗実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを 除く。)	プロとしての総合力(=現場力)を 身に付けるために、分野のスペ シャリストによる実習や学外実習 は、大変重要な要素であると考え ている。実習の実施にあたっては、 学生の受け入れ実績や採用実績 のある施設を選定している。	株式会社新神戸ホールディングス (ANAクラウンプラザ神戸)、cafe Bene!等 計7社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の向上並びにクラス運営方法やマネジメント能力の強化 を研修の目的としています。研修の対象は教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法 並びに評価指標を定め、それぞれの専門職の業界による研修の参加や専門教育機関への参加を計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JESC国家試験対策研修会 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年6月4日(火) 対象: 全教員

内容 国家試験結果分析と国家試験合格率の更なる向上に向けての事例報告の共有

研修名: 食文化技術研修会 連携企業等: 食文化教育分科会

期間: 2024年8月7日(木)、8日(金) 対象: 教員

内容 食材をテーマにした実習に繋げていく

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: キャリアサポートアンケート勉強会 連携企業等: 一般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年6月5日(水)~7月26日(金) 対象: 教職員

内容
『JESCキャリアサポートアンケート』の学生の傾向と問題状況の読み取り方、学生指導への活用方法を学

ぶ。

研修名: 進路アドバイザー研修 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年8月27日(火) 対象: 教職員

内容 進路変更のコンサルティングスキルを修得し、実務内容を理解する。

研修名: 教職員カウンセリング研修1次 連携企業等: - 般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年 9月25日(水)~ 9月27日(金) 対象: 教職員

内容 カウンセリングマインドを身につける

研修名: 教職員カウンセリング研修2次 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年 9月25日(水)~ 9月27日(金) 対象: 教職員

内容 カウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。

研修名: ハラスメント研修 連携企業等: 一般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年11月7日(木) 対象: 教職員

内容 ハラスメントが起きる原因や背景、問題の構造を理解し、ハラスメント予防と初期対応の習得

研修名: キャリア教育カウンセラー研修 連携企業等: - 般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年11月14日(木) 対象: 教職員

内容
「社会環境の変化に応じたキャリア教育に対する考え方の共有」から「アクションプランの策定および実施」

ができるようになる。

研修名: フォローアップ研修 連携企業等: - 般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年11月20日(水) 対象: 教職員

内容 理念・行動規範を振り返り、組織人としてのアイデンティティを確立する。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JESC国家試験対策研修会 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2025年6月4日(水) 対象: 全教員

内容 国家試験結果分析と国家試験合格率の更なる向上に向けての事例報告の共有

研修名: 食文化技術研修会 連携企業等: 食文化教育分科会

期間: 2025年8月5日(火)、6日(水) 対象: 全教員

衛生・安全の意識向上へとつなげていく事を目的とする。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: キャリアサポートアンケート勉強会 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2024年6月5日(水)~7月26日(金) 対象: 教職員

内容
『JESCキャリアサポートアンケート』の学生の傾向と問題状況の読み取り方、学生指導への活用方法を学

ぶ。

研修名: FDミクロレベル研修 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2025年7月9日(水) 対象: 教職員

内容 クラスマネジメントについて、自身の改善とスタッフの支援を身につける。

研修名: 教職員カウンセリング研修1次 連携企業等: 一般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2025年 9月17日(水)~ 9月19日(金)のうち1日 対象: 教職員

内容 カウンセリングマインドを身につける

研修名: 教職員カウンセリング研修2次 連携企業等: -般財団法人滋慶教育科学研究所

期間: 2025年 9月25日(水)~ 9月26日(木)のうち1日 対象: 教職員

内容カウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が実施した自己点検・自己評価の内容を審議、評価することを通して、学校運営の改善に生かすことを方針とします。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ľ		大日にの万元
	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
	(1)教育理念·目標	(1)教育理念•目標
	(2)学校運営	(2)学校運営
	(3)教育活動	(3)教育活動
	(4)学修成果	(4)学修成果

(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

国家試験合格率100%、就職率100%、退学率を限りなくOにする取り組みについて、一定の評価を頂いています。国家試験対策では、1年生からの対策講座の開講や一人ひとりの理解度に合わせた対策で、資格取得をサポートしています。また就職率100%だけでなく、早期離職者対策として、在学中から対策を行っています。退学率については、過去3年間低減しており、引き続き、限りなくO%になるよう取り組んで参ります。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
中津 亮	卒業生代表	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	卒業生
高橋 静代	保護者代表	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	保護者代 表
島誠一	ANAクラウンプラザホテル神戸セールスアンド マーケティング部営業部長	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	近隣関係 者
五味 仁志	兵庫県立須磨友が丘高等学校 元校長	令和6年4月1日~令和8年3 月31日(2年)	高等学校 関係者
高杉 良和	株式会社本髙屋 商品開発部 顧問	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	企業等委 員
井筒 英治	兵庫県パン商工組合 理事長、株式会社イス ズベーカリー会長	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	企業等委 員
西村 欣祐	兵庫県菓子工業組合 理事長、株式会社西村 清月堂 会長	令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年)	企業等委 員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

【ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: https://www.kobeseika.ac.jp/info/

公表時期: 2025/6/27

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年作成している事業計画の実行方針では目標(カリキュラムの検証、中途退学防止、卒業後の離職防止等)を具現化するため、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の委員の方からの意見をもとに、実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、講師会議やホームページを通じて、教育活動その他の学科運営の情報に関する情報の提供を行っています。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の理念、校長名、所在地、連絡先、教育目標、学校の沿革
(2)各学科等の教育	八字者に関する受け入れ方針及い八字者数、収容定員、在字字生数、教科目標、教科課程、進級・卒業の要件、資格、検定、実績、卒業者数、卒業後の進路、各学科シラバス
(3)教職員	教職員数、組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育システム、実習・実技等の取組、就職支援の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学年暦、学校行事の取組状況、設備紹介
(6)学生の生活支援	学生支援の取組
(7)学生納付金・修学支援	学費、学費サポート
(8)学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、貸借対照表、監査
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	
(11)その他	
ツ(10) ひが(11)にのいてはな辛引井	· ·

|※(10)及び(11)については任意記載。

))

(3)情報提供方法 (ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(URL: https://www.kobeseika.ac.jp/info/ 公表時期: 2025/7/25

授業科目等の概要

	#RE	F! 分類	į						授	後業ス	5法	場	所	教	員	
		選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実験・実習・実技			専任	兼任	企業等との連携
1	0			製菓デザイン	制作したい製菓デザインがデッサンと色彩 で立体 的に表現出来るようになる。	1 前	30	1		0		0			0	
2	0			コンピュータ	コンピュータの基礎的な操作ができ、また 応用ソフトウェアを使って実務に関する資 料を作成できるようになる。	1 前	30	1		0		0			0	
3	0				商品価値を高める様々な技法を身に付け慶 弔をふまえ自由な発想でラッピングできる ようになる。	2 前	30	1		0		0			0	
4	0			アッセンブリー	業界人としての心構えと必要な知識を修得 する。	一前・2前	60	2	0			0		0		
5	0			衛生法規	法律に関する基礎知識をはじめ、衛生行政 及び製菓衛生師法、食品衛生法の概要を修 得する。	1 前	30	1	0			0			0	
6	0			公衆衛生学	公衆衛生の意義や食に関する環境衛生など 衛生管理の実際についてを修得する。	1通	60	2	0			0			0	
7	0			食品学	食品に関する成分や特性、生産と消費についてを修得する。	1 通	60	2	0			0			0	
8	0			食品衛生学	食品を扱う上で大切な衛生学全般を修得す る。	1 通	120	4	0		Δ	0			0	
9	0			栄養学	各種栄養素の機能及び栄養の摂取など、豊かな食生活を築くための基本知識を修得する。	1通	60	2	0			0			0	
10	0			社会	菓子・パンの歴史を学ぶとともに菓子店舗 経営の概要を修得する。	1 後	30	1	0			0			0	
11	0			製菓理論	菓子の分類や原材料の基礎知識、器具の取 り扱い、各種製法工程を身に付ける。	1 通	90	3	0			0			0	
12	0			基礎実習	実習における基本的な作業を修得し、和・ 洋菓子・製パンの基本的な技術を修得す る。	1 前	180	6	0			0			0	0
13	0			専門実習	さまざまな洋菓子の基本的な技術を修得する。	1後	300	10	0			0			0	
14	0			高度洋菓子実 習	1年次に修得した基本技術をもとに、より 専門的で高度な技術や最新技術を修得す る。	2 通	480	16	0			0			0	0
15	0			製菓研究ゼミ	製菓の各専門分野についてより深く研究 し、その研究を発表できるようにする。	2 通	360	12	0			0			0	
16	0			カフェ経営	菓子店の開業準備から経営までのノウハウ を修得する。	2 前	30	1	0			0			0	
17	0			店舗実習	店舗の装飾、商品の陳列方法、接客応対な どの販売実務ができるようになる。	2 通	60	3	0			0			0	0
			合	計	17	科	目				2010	単化	立 (単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件: 本校所定の課程を修了し、出席日数をみたし、試験に合格すること	1 学年の学期区分 15 期
履修方法 修了試験等の方法により 制菓技術者 制菓衛生師 制パン技術者と	1 学期の授業期間 15 调

[「]履修方法:修了試験寺の万法により、表示以内は、へいいのでは、事項)
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。